

# 平成28年度 学校関係者評価委員会の報告と学校の改善策 世田谷区立富士中学校

世田谷区立富士中学校 校長 小松 昌之  
学校関係者評価委員会 委員長 黒木 美枝

保護者・生徒・地域の方からいただいた「関係者アンケート調査の集計結果」と、教職員による「自己評価報告書」及び「学校関係者評価委員会の報告と学校の改善策」は、例年どおり3月中に富士中のホームページ上で公開いたします。過去の報告もあわせて御覧いただき、今までされた数々の提言と回答等も確認していただければ幸いです。ここでは次年度に生かせるような包括的な報告と提言をさせていただきます。どうぞ、よくお目通しいただき、富士中の更なる発展のために御支援・御協力をお願いいたします。

学校関係者評価委員会の報告 (回答を求めた項目)	学校の改善策
<b>一学校関係者評価アンケートと自己評価報告書の分析の中から</b>	
<p><b>I 重点目標について</b></p> <p>富士中では、今年度も重点目標として「教育の質の向上を図り、確かな学力を育成する」「生活指導の充実に努め、豊かな人間性を育む」「地域教育基盤の確立と開かれた学校づくりをとおして、思いやりの心と地域への感謝の心を育成する」の3点を挙げ、それぞれに数値目標を設定しています。「教育の質の向上を図り、確かな学力を育成する」では学校関係者評価の「授業をとおして、子どもたちに学力がついている」の肯定率80%以上を目標にしています。アンケートでは昨年とほぼ同じでしたが、学習指導についての平均値は目標値を下回っていました。逆に、生徒の学習指導についての4項目は全てプラスとなり、目標値を上回りました。保護者との三者教育面談や保護者会等、個々の学習習得状況の理解を深められるよう工夫に努めてください。「生活指導の充実に努め、豊かな人間性を育む」では学校関係者評価の「子どもたちに問題となる行動が見られることは少ない」の肯定率90%以上を目標にしています。地域の肯定率は昨年と同様目標をクリアしています。しかし、保護者の肯定率は昨年より大きく上がってはいるものの、高い数値目標を設定していることもあり、クリアできていません。今後も「人格の完成をめざして」の取り組みの継続に努めつつ、保護者が生徒の状況をより的確に把握できるよう、保護者会や学年便り等でのお知らせや周知徹底をお願いします。「地域教育基盤の確立と開かれた学校づくりをとおして、思いやりの心と地域への感謝の心を育成する」では生徒・保護者・地域ともに昨年より肯定率がプラスになりました。今後も地域と連携したボランティア活動や体験活動への参加の推進を継続してください。</p>	<p>一つ目の重点目標については、年間3回の授業研究と全教員が年1回以上の研究授業を実施し、また、各教科等の教育内容を相互の関係でとらえ、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列し、教育内容の質の向上に向けて、「諸学力調査」や学校関係者評価による評価を全教員で検証し、それに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立することで、指導方法の工夫・改善を図ります。</p> <p>二つ目の重点目標については、前年度に比べると肯定率が上昇したので、今年度に引き続き、月1回職員会議後に生活指導部会を開催し、報告・連絡・相談を徹底し、関係分掌を中心とした指導を強化します。また、「人格の完成をめざして」の取組との関連を十分に考慮し、特に道徳の時間を要とした道徳教育の充実を図り、自他の命を尊重する心やすべての人への思いやりの心を育てる人権教育を充実させ、きめ細やかな指導の下、校内秩序の確立を図り、徹底した指導を継続させます。</p> <p>三つ目の重点目標については、地域運営学校として、地域の人々との関わりを深めるとともに、地域へ貢献することを重視し、開かれた学校づくりのために地域連携の充実を推進していきます。学校支援地域本部を中心とした学校支援組織「富士アシスト」の四つの支援グループの一つである地域活動・ボランティア活動グループと連携した体験活動への参加を推進します。また、ボランティア活動を生徒会活動として位置付け、校内におけるボランティアを体験する機会を設定します。また、道徳の時間を要とした道徳教育の充実を図り、ボランティアマインドを醸成し、自尊感情を高めます。</p>

<h2>II 地域とともに子どもを育てる教育について</h2> <p>地域運営学校に指定されて8年目になりました。クリーン作戦、避難所運営訓練、古着回収、グリーンアカデミー、挨拶運動や代沢地区文化スポーツ交流会等の地域活動・ボランティア活動をとおして、地域との交流を図っています。地域の方々と「出会い」、そこから「学び」「気付く」。出会った人の生き方や地域や社会で起きていることを知ることから、自分の生活や生き方を見つめ直す機会となっています。また「富士の学び舎」の教育活動は、「豊かな知力」「豊かな人間性」「ことばの力」を重点目標として取り組まれています。世田谷9年教育にのっとり小学校5校と富士中とで計画的に小中連携が行われており、活動は継続され、安定しています。しかし「地域との連携について」のアンケート結果では、生徒の「学び舎の区立小学校との交流が活発である」についてと、保護者の「学び舎の活動について、十分な情報が提供されている」の肯定率は約半数と低く、更なる工夫が必要だと思われます。「学校協議会や合同学校協議会・学校運営委員会の十分な情報が提供されている」の保護者に関するアンケート結果では、昨年よりマイナスになっています。また、ホームページに関することも保護者・地域ともに低く、地域に関しては昨年より更にマイナスになっています。広報活動や情報発信により一層の努力をお願いします。</p>	<p>「地域とともに子どもを育てる教育」を実現するために、地域運営学校として、学校運営に関する役割と関係者・関係機関との連携や内容について協議し円滑な運営に努めます。また、学校協議会の一層の充実を図り、情報を公開して、コミュニケーションを活性化させ、「学校運営委員会」との連携を深め、地域力の導入を図ることにより、開かれた学校づくりのための地域連携の充実を推進していきます。</p> <p>「富士の学び舎」の教育活動については、「学び舎」教育計画に基づき小中交流会・小中合同学校協議会を開催し、学校・地域・家庭との連携を強化し、地域教育基盤の確立をめざすとともに、義務教育の9年間で育てたい力・資質の実現に向けた取組を充実させ発展させるために、地域の人材及び教育力活用の工夫にさらに努めます。また、学校協議会を中心に、小学校や関係機関と連携し、「学び舎」としての地域教育基盤づくりを推進します。</p> <p>併せて、学校協議会や地区委員会、諸便り、ホームページなどをとおして、保護者・地域の方々に学校への理解をより一層深めていただき、御支援と御協力をいただきながら教育活動を推進します。</p>
<h2>III 未来を担う子供を育てる教育について</h2> <p>富士中は学習の「質と量」を常に大切にしています。質としては、数学・英語における「少人数習熟度別授業」の実施、全教員による年間1回以上の授業研究・授業観察を実施し、指導方法の工夫に取り組んでいます。併せて各教科において「ICT活用授業」の推進を図っています。量としては、授業時数の確保に努めています。さらに、放課後学習・夏季補習教室や富士サタスタ、区土曜講習会・朝学習(2・3年生)等も定着しています。また、職場体験学習は2年生を対象に40の事業所の御協力を得て、9月に実施されました。地域社会の実践の場に立つことは、社会の一員としての自覚を促し、社会性や勤労観・職業観が育まれるとともに挨拶や時間を守ることの大切さ等、社会生活を送るために必要なマナーやルール等を学ぶ重要な場となっています。</p> <p>スクールカウンセラーによる相談活動の充実を図る取り組みは、認知度も昨年より上がり、個に応じた対応ができます。また「富士中だより」に毎回載っている情報は大人にも役立ちます。さらに、富士中でも「いじめ防止プログラム」を1年生対象に実施しており、重点目標である「確かな学力を育成する」</p>	<p>本校では、「教育の質の向上」と「教育の量の確保」に努め、具現化に向けた様々な取組は本校の特色になっています。今後も、繰り返し学習する内容及び発展的に学習する内容を取り上げ、基礎的・基本的な知識・技能を定着させ、アクティブ・ラーニングを導入することにより、「課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び」を展開していきます。</p> <p>「教育の量の確保」については、子どもの育成に携わる地域の人材の教育力を、学校支援地域本部を中心とした学校支援組織『富士アシスト』として活用し、さらに充実に努めます。</p> <p>また、生徒にとってよりよい学校生活を送ることができるよう、規律ある生活態度の育成や規範意識の醸成、より良い人間関係の構築等を目標とした指導に、今後も組織的に取り組みます。また、自他の生命を尊重する心やすべての人への思いやりの心を育てる人権教育の、より一層の充実にも努めます。</p> <p>教育ニーズに的確に応じた教育支援の在り方を追求し、個に応じた支援をとおして、個性や能力を発揮しながら人とかかわることのできる生徒の育成をめざすために、スクールカウンセラーや関係機関と</p>

<p>ことや「豊かな人間性を育む」こと、これら「質と量」を大切にする取り組みは、今後も維持に努めてください。また、9月より地域の方々の御協力により毎週水曜日の放課後、図書館開放が始まりました。地域の方々の御協力に感謝いたします。</p>	<p>連携した指導をより一層充実させます。</p> <p>来年度も、地域や保護者と連携して学校図書館を開放することにより、「生徒に本の魅力を実感させたり、読書と生活を関連付けさせたりすることで読書への意欲を高めていきます。</p>
<p><b>IV 信頼と誇りのもてる学校づくりについて</b></p> <p>今年度は「学校運営について」は教職員、保護者、地域の評価はおおむね肯定的となりました。保護者の「教職員について」、生徒の「先生について」がともに平均して80%以上で昨年度より大幅に上がりました。「学校公開や保護者会をとおして、学校の様子がよくわかる」の保護者の数値も上がりました。今後も生徒・保護者の理解を深められるよう更なる努力・工夫をお願いします。また、ゲストティーチャーの講義は毎年工夫されており、進路指導やキャリア教育とともに多面的な成長に欠かせないエッセンスとなっています。区の研究指定校として「個に応じた教育支援を充実させる」ための研究の取り組み等、校内体制を充実させる更なる取り組みをお願いします。安全管理については、安全確保の向上に向け地域、保護者、学校の共通の認識を更に深めるための工夫・改善を引き続きお願いいたします。学校運営の今後の取り組みに、より一層の努力をお願いします。</p>	<p>学校に対する保護者や地域の願いを理解し、学校経営方針に基づいた教育活動の推進に継続して取り組むとともに、保護者・地域にも浸透するように情報を幅広く発信するように努めます。</p> <p>ゲストティーチャーをさらに活用することにより、生徒が自己の将来に見通しを持ちながら学校生活に臨み、自己実現に向けて意欲的に取り組むことができるようとするための指導の工夫に取り組みます。 今年度、区の研究指定校として行った、「個に応じた教育支援を充実させる」ための研究を土台にして、来年度もQ-U調査の結果分析等をとおして、各教員の生徒理解や学級経営に関する資質や能力を向上させることにより、生徒理解を深め、いじめや不登校の未然防止や早期対応などの取組の推進を図ります。</p> <p>安全管理については、地域や関係諸機関と連携を図って、事故防止や安全指導の充実を図り、生徒の安全確保に努めます。</p>
<p><b>V 教育環境の整備について</b></p> <p>昨年度まで冷水器5機が全て新しくなりました。PTAの御協力に感謝いたします。今年度は2・3年生の階にも設置の要望が出ています。維持、管理の問題があると思いますが御検討いただければと思います。まだ未設置の教室へのエアコン設置や図書室の整備など、子どもたちが安心・安全な生活ができるよう、施設・設備の充実に向け、引き続き御検討ください。</p>	<p>教育環境の整備について、区や保護者の方々の御理解のもと、区と連携を図りながら改善に取り組んできました。さらなる教育環境の整備に向けて、今後も、区との連携を図りながら継続的な改善に取り組みます。</p> <p>また、学校図書館の運営については、生徒に本の魅力を実感させたり、読書と生活を関連付けさせたりすることで読書への意欲を高めるために、地域や保護者と連携した読書活動の工夫に取り組んでいきます。</p>
<p><b>VI 学校生活全般について</b></p> <p>平均して肯定的な意見は生徒、保護者ともに昨年度より全体的にプラスになりました。生徒のアンケート結果では、「部活動について」の「入りたい部活動がある」の項目と、「学校全般について」の「毎日の学校生活が楽しい」の項目が、ともに昨年度よりマイナスとなっています。昨年度大きくマイナスだった「進路指導」・「先生」についての項目は大きくプラスに転じました。保護者の結果も、「生活指導」・「進路指導」・「教職員」についての項目が大きくプラスになりました。昨年度の対策結果が数値につながったと思われます。アンケートの自由意見欄には、生徒・保</p>	<p>教育計画に沿った教育活動を円滑に進めるために、様々な工夫をしています。これからも、生徒・保護者・地域の方々に教育計画の内容を正しく認識していただくための説明を継続し、理解を得ながら教育活動を進めるように配慮いたします。</p> <p>一人ひとりの生徒が、教育活動の様々な場面で自己の能力を十分に発揮しながら成長していくように、校内支援体制を整備し、「教育相談ノート」を活用することにより、生徒理解を基本に、個に応じた指導と教育相談活動を充実させ、特別支援教育コーディネータやSC、外部連携機関と連携を図り</p>

保護者から多様な意見が寄せられています。その期待に応えられるように、落ち着いた環境で生徒一人ひとりが学習や学校生活に取り組み、自己を成長させる活動に臨める学校づくりをお願いします。	ながら、生徒一人ひとりの心の安定を図り、個に応じたきめ細やかな指導を組織的に実践するための取組を継続させます。
--	---

### —学校関係者評価委員会の総合所見—

## VII 学校評価委員会の総合所見

評価委員会としては、まず先生方の日常の努力に感謝いたします。

- 1 教職員による自己評価報告書を見ると、内容も具体的です。学校が地域の学校として意欲的に取り組んでいることが分かります。
- 2 セーフティー教室や情報モラルの授業に関しては、生徒・保護者・地域とも90%以上の評価を得ています。定期的に行われている安全指導や避難訓練、地域との連携による避難所運営訓練、災害時対応などの保護者への情報提供、校内現況や衛生面など、学校の安全性に対しての数値は、昨年度に比べ、全体的にプラスになりました。保護者・地域の方々とともに、安心・安全な学校づくりへ更なる努力と、密な連携をお願いします。
- 3 生徒たちは富士中が好きで誇りをもっており、楽しく学校生活を送っていることが分かります。今年度は、学習指導、進路指導、先生についてのマイナス値がプラスに転じ、全体的に大きく数値が上がりました。生徒たちにとって最大の教育環境は教師自身の姿そのものであり、人間としての豊かさや広い分野での教養を求められると思います。学習面でも「質と量の確保」をこれからも続けていただくとともに、生徒たちと向き合う時間の確保にも尽力をお願いしたいと思います。また、各御家庭・地域の皆様におかれましても、手本となる良き家庭環境・地域環境として温かく子どもたちを見守っていただきたいと思います。
- 4 保護者による「さよなら、声かけ当番」は、今年で17年目になりました。わが子だけではなく、地域の子どもたちの様子を知る良い機会となっています。「子どもたちを見守る」この素晴らしい取り組みを、ぜひ継続していただきたいと思います。
- 5 今年度も、夏の部活動合宿は98名の参加により蓼科で実施されました。校長先生を初め、先生方や外部指導員、看護師の方々等、支えてくださいました関係者の皆様に感謝いたします。
- 6 学校を取り巻くいろいろな環境が、年々、整備かつ改善されていることを評価いたします。なお、継続する課題につきましては、引き続き検討をお願いします。

学校関係者評価委員会	委員長 黒木 美枝
	委 員 渡邊 真弓
	委 員 横光 香里
	委 員 中村 説子
	委 員 三島 祥子
	委 員 森 奈弓